

会 議 録

会議の名称	行田市都市計画マスタープラン第7回策定委員会
開催日時	平成24年12月14日(金) 開会：午後1時30分 閉会：午後3時30分
開催場所	行田市産業文化会館2階 第2会議室
出席者(委員) 氏名	酒井建二 宮本伸子 柿沼貴志 吉田豊彦 秋山佳子 小河原勝美 橋本好司 秋山量一 小林康男 野中昭夫 山崎孝子 白井裕泰 細井保雄 荒井文之助 今村武蔵 長原順子 井上光広 野村正幸 鈴木英樹 正田行夫 大久保毅 富岡誠 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏名	川田英一 町田光 (名簿順・敬称略)
事務局・担当課	【都市計画課】岡村課長 金子主査 横倉主任 金古主任
会議内容	議事(1) 都市計画マスタープラン素案について
会議資料	(資料名・概要等) ・次第 ・資料 行田市都市計画マスタープラン(素案) ・補足資料 修正箇所対応表
その他必要事項	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
酒井委員長	<p>・酒井委員長あいさつ</p> <p>・24名中22名の出席で本会議は成立する。</p> <p><b>審議</b></p> <p>それでは、しばらくの間、議長の職を務めさせていただく。昨年12月に始まった策定委員会も今回が最終回になる。これまで素案の策定にあたって色々な視点からご意見ご提言をいただき検討してきたが、それらを取りまとめて素案としてまとめている。</p> <p>今回は、この素案に対するご意見とこの委員会を通して感じられている感想などをお聞きしたい。なお、この素案については、これまでの内容から変更・修正している箇所があるので、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局(金子主査)	<p>■資料を用いて、素案の概要について、事務局から説明する。</p>
酒井委員長	<p>これまでの6回で議論していただいたものがこういう形でまとまっている。きれいにまとまっていると思うが、皆さんからご意見を伺いたい。</p>
吉田委員	<p>事務局の説明の中で、文言として「検討します」「取り組みます」「推進します」「促進します」を使い分けているという話があったが、計画期間に対してどれぐらいの時期に実施するととらえたら良いのかお聞きしたい。</p>
事務局(金子主査)	<p>文言の整理については、タイムスケジュールというより取り組みの難易度で区分している。タイムスケジュールとしては、第6章の158ページからになるが、先導的な取り組みをリーディングプロジェクトとして位置付け、当初の5年間で進めていく事業を整理し、主な担当課を記載している。まず5年でやっていく事業を定め、それらをしっかり評価して次の施策を展開していくという考え方である。</p>
酒井委員長	<p>リーディングプロジェクトも5年間で全部終わるものではないと思うが、取り組み始めるということで良いかと思う。</p>
今村委員	<p>マスタープランの策定方法について、最初に平成23年の市民</p>

	<p>意識調査から始まり、市民まちづくり会議が11月からスタート、策定委員会が12月スタートとなっている。つまり市民の願いを盛り込むにはタイムラグがあって、我々はできたプランの追認機関でしかないのかと思う。市民から一応意見を聞いておこう、という形に見えてならない。大勢の市民の意見を反映させるためには、もっと早い段階でアンケートや市民会議をしておく必要があった。こういうプランの作り方が市民参加とは思えない。もう少し市民の意見を聞いてからプランの検討に入るべきであるし、最初からプランがあったとしか思えない。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>今村委員の意見も貴重かと思うが、先ほど説明があったように、これまで37回の会議を通して意見を集約して最終的にこの委員会で議論して今日の素案の形になったと理解している。もう少し市民の声を聞いて、という意見もわかるが、私は理解しているつもりだ。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>都市計画マスタープランは法律で市が定めるものとなっている一方で、市民と一緒につくろう、ということが強調されている。実際に、市民が直接計画をつくるというやり方もあり、何例か総合振興計画策定などで取り組まれているケースがある。この場合は、行政やコンサルタントはあくまで市民をサポートするという形になる。今回の形は一般的な手法だと思う。今後、時間の問題もあると思うが色々な形で新しい計画づくり、市民を多く巻き込んだ計画づくり、というものにもトライしてもいいのではないかと思う。</p>
<p>今村委員</p>	<p>従来の方法はそうであるだろうが、計画の実施に向けて市民との協働の姿勢を築かなければ、市民参加をなくしてこの計画の推進は出来ないと思うので、行政も市民の願いや想いをもう少し取り上げていくべきである。協働を進めるためにあえて申し上げた。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>13ページに第5次総合振興計画の将来人口が書いてあるが、人口が減らない趨勢の中で計画を練られているように思う。このマスタープランは減らないという前提で計画されていて、少子高齢化という現状を見ると、当初からこれでいいのか、と思うこと</p>

	<p>があった。計画の中に、私のような意見もあった、ということで注釈を入れていただくことは出来ないか。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>56ページに記載のある本計画の目標人口について、これで大丈夫か、というご意見だが、事務局から何かあるか。</p>
<p>事務局(金子主査)</p>	<p>しっかり計画に掲げる施策を進めていくことで少子高齢化に対応していきたい。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>人口が減るということは、経済も衰退するということになる。しっかりとPDCAをやっていただくことで計画を実行してもらいたい。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>推計の仕方はいろいろあり、マクロな推計のもとで市町村の推計をやっていると思うので変動はあると思う。まちづくりの政策と関わってくることもあると思うので、計画の進行管理の中で必要に応じて見直ししながらやっていくということで良いのではないかと思う。</p>
<p>柿沼委員</p>	<p>例えば31ページの図など字が小さくて見えない。他の図面は作り直していると思うが、字が見えるようにする必要があるのではないか。また、冒頭の市民憲章の箇所に行田市歌を載せても良いのではないかと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>31ページの図は出典を見ると観光協会のマップをそのまま使っていると思うが、事務局はいかがか。</p>
<p>事務局(横倉主任)</p>	<p>観光協会のマップで加工は不可ということで貼り付けている状態になっている。ただ、庁内の照会でも同様の意見があるので何らかの工夫で見やすいようにしたいと考えている。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>最終的な素案ということなので、間違いでもお気づきの点があれば発言をお願いしたい。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>非常時に対して都市計画マスタープランがどう対応していけるのか気になっている。いま被災地の記録集をつくっているが、すべての計画を見直さなければならないということになっている。震災が起きたことを踏まえるとある程度この計画が非常時にも機能する計画であると良いと思う。例えば、各地域の地図に避難所が入っていても良かったのではと思う。</p>

酒井委員長	<p>危機に対する対応や安全性の問題に対する内容については33ページに都市の課題の中で整理されているが、安全性については少ないので多少盛り込んでも良いのではないかと思います。</p>
細井委員	<p>「人は知れば知るほど好きになる」という言葉があるが、この機会を通して行田市をますます好きになったように思う。計画については今後も微調整はあるかと思うが、非常によく出来ていると思う。まず、定住人口を増やすということで南大通線と前谷地区が反映されている。また雇用の創出ということで、下須戸地区やみなみ産業団地付近が提案されていて非常に良いと思う。みなみ産業団地の隣接地は雇用の創出の面で良いし、地元でしっかりとした企業を誘致することが大切だと思う。このことから、雇用と定住がつながっていると考える。また、行田市総合公園の付近が交流拠点として位置づけられたことも非常に良い。既存のグリーンアリーナや国道125号行田バイパスなどのインフラが既に整備されているので即効性のある事業になると思う。更に市役所から常盤通佐間線がつながると更に効果的なものとなる。今日初めて聞いた内容であるが、すぐに促進した方がよいのではないかと思います。本計画では7万人まで人口が落ち込むことになっているが、官民一体となって横ばいに維持できるように、PDCAをしっかりとやって上昇スパイラルで継続して回していくような機関を創設すれば確実に実行出来るのではないかと思います。</p>
酒井委員長	<p>非常に積極的なご意見だったと思う。72ページの図に産業拠点が3箇所位置付けられており、これについて80ページ及び149ページに文章で記載されているが、唐突な感じを受けるので、この場所を選んだ理由について触れておいていただければ有難いと思う。</p>
酒井委員長	<p>他に意見がなければ、この委員会に対する感想などもお伺いしたい。</p>
宮本委員	<p>産業ゾーンについて、細井委員から3拠点が重要だというご意見があったが、80ページも149ページも「検討します」になっている。このマスタープランを守りの計画ではなく攻めの計画</p>

<p>大久保委員</p>	<p>とするのであれば「推進します」の表記にしてはどうか。</p> <p>気持ちとしては賛成だが現実には難しいと思う。既存の地域を積極的に整備するという方が財政的な支出が抑えられるのではないかと思う。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>産業立地というのは非常に難しく、新たな産業拠点を整備するのは非常に難しい時期にあると思う。既存の産業団地も部分的には空洞化や工場から物流への転換などがあるが、埼玉県は対外的にも働きかけたりセールスに出向いてたくさんの企業と接触したりするなど、全国的にはうまくいっている状況にあると思うので、行田市も新たな産業ゾーンを設定するのであれば、相当の努力をして頂きたいと思う。</p>
<p>正田委員</p>	<p>事務局の方で文言の整理について説明があったが、法制度の問題も重要だと思う。「検討します」というのは役所言葉としてイメージは決して良くないが、特に農地関係の規制はここ数年非常に厳しくなっている。表現を変えるのは簡単だが、新たな住居系土地利用やバイパス沿いの開発については位置付けるべきだと思うし、「検討」がない表現だとそれこそ絵に描いた餅に等しい。行田市については、土地利用の状況から見ると非常に厳しいのではないかと思うが、バラ色の計画にしてしまっただけでは他の部分でも大丈夫かな、と見られかねないと思う。</p>
<p>酒井委員長 柿沼委員</p>	<p>正田委員のご意見も含めて、事務局には検討いただきたい。</p> <p>文章内に「※」が入っているがページ内に注釈がない。用語解説で解説しているということをごまかしてどこかに書いておいていただきたい。</p>
<p>大久保委員</p>	<p>一番気になるのが少子化、高齢化、グローバル化である。産業は海外に出てしまい、少子化で人口が減る。これから高齢者人口が増えるということに対する配慮が計画の随所に出てきても良いのではないかと思うが読む限りあまり出てこない。高齢者に対する配慮というものはどのように考えているのか。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>非常に重要なことで、私の印象としては課題や基本的な方針で表現されていると思うが、具体的な施策の中でそういう部分も強</p>

富岡委員	<p>調した方がいいことがあるかもしれない。事務局の方でも全体的に見ていただいて対応していただきたい。</p> <p>行田市には、いきいき元気サポート制度や支えあいマップなどがあるので、都市計画の計画ではあるが福祉的な用語も入れていただいてもいいのではないかと思う。55ページの「地域の元気」のところだが、ここにも地域で取り組んでいただいている施策を入れてもらえればボリュームアップするのかなと思う。安心安全だけでなく、もう少し、魅力ある地域づくりや結びつきを強化する取組みを行うなどを追加してはどうかと思う。</p>
酒井委員長	事務局で補足できることがあれば対応していただきたい。
秋山（佳）委員	<p>大変よく出来ていて、働く場などについては充実していると思う。これから人口が減っていくのに対して、子育て世代よりは育てられる世代についての教育環境などについてあまり載っていないように思うがいかがか。</p>
酒井委員長	教育そのものについては、都市計画マスタープランの中で表現できることが限られてくると思うが、いかがか。
事務局(金子主査)	99ページになるが、教育について少し触れている。都市計画マスタープランはハード系の計画であるが、教育の面にも配慮して記載させていただいている。
秋山（佳）委員	99ページの（2）だが、子育てをしている親の立場に立っている内容だと思う。親ではなくて子どもの立場に立って学校の環境についての施策は載せづらいのか。
事務局(金子主査)	6ページに計画の位置付けがあるが、右側に分野別の計画等の一覧を示しているように、分野別の計画と都市計画マスタープランをリンクさせるような形で策定してきた。いただいたご意見の中で、対応出来るところは反映していきたいと思う。
柿沼委員	<p>行田市で内々に出来ることは詳しく書いてあるが、いままでの議論で、人がどんどん減っていく中で外から行田市に、というご意見が出てきたかと思うが、その辺をもう少し厚くしてもいいのではないか。</p>
酒井委員長	確かにマップなどについても市外のことが書いてあるものはほ

	<p>とんどない。対外的に行田市をどう見るか、またどう連携していくかという視点だと思うが、今のご意見についてどのような対応ができるか事務局で検討していただければ有難い。</p>
酒井委員長	<p>特に計画に対するご意見がなければ、委員会に対しての感想などを富岡委員から一言ずつお願いしたい。</p>
富岡委員	<p>会議に参加したいと思った動機に少子高齢化という問題があり、行田市に残って欲しい、そういうまちづくりをしていかなければいけない、という思いがあって応募した。全ての世代にとって住みやすいまちづくりをしていかなければならないが、行田で育った人が行田に住むことができるまちづくりを期待している。</p>
大久保委員	<p>マスタープランというのは行田市だけでなく熊谷市、羽生市それぞれに計画がある。その中で人口が移動するというのはそれぞれ考えていると思う。私は人口減が一番気になっている。市職員も議員も人口が減れば人数が半分になってしまうというぐらいの覚悟を持って取り組んでいただかないと本当に危ないと心配しながら参加させていただいた。</p>
正田委員	<p>都市計画マスタープランでは土地利用が中心になると思うが、新たに何かをやる時に農地が対象になる場合はそのブレーキ役となることが多い。耕作放棄地などが増えたりして苦しい立場ではあるが、なかなか農地法がゆるくならない、むしろ厳しくなっている。そういう中で市民の明るい将来を望む声も分かるし、奥歯に物が挟まった言い方になってしまった。県内の市町村の活性化ということで精一杯やっていきたいと思う。</p>
鈴木委員	<p>前任から引き継いで1年になる。行政は予算で動くので、計画を考えていただいたが、県としてこの通り予算がつくのか非常に不安だ。だが、みなさんのご意見が大きな後押しになるので、適切な表現で入れていただければいいのではないかと考えている。</p>
野村委員	<p>農地の利用を考えると、ほとんど後継者がいないのが現状で、また、地域の集落を見ても、父母がいて子どもが結婚して次の代に繋がるだろうというのは1割程度しかなく、子どもが結婚しないでいる家が多い。推計よりもっと極端に人口が減ると推測する。</p>



井上委員	<p>人口減をいかにして止めていかにして増やすかということで、先に減るのを止めなければならないが、難しいと思いながら参加させていただいた。次の世代に活かせるように伝えていきたいと思う。</p> <p>私たちが住む行田市、子どもが住む行田市の基本方針が、このような形で決まるんだという気持ちを持った。もっと市民の声を聞いて進めていくべきだと思う。市民の方はマスタープランをほとんど知らないと思う。せっかく作ったのだから、周知することによく取り組んで欲しい。しっかりこの計画を遂行していただきたいと思う。</p>
長原委員	<p>この計画がこういうふうに作られるということを初めて知った。計画の中ではJR行田駅が中心となっているが、市民にとっては吹上駅が中心となっている。そういう意味で他市との連携というのを考えていただきたい。教育については、内容については縦割り行政の中で考えていくことかと思うが、例えば、景観条例とか、学校のまわりに何があるとか、都市計画マスタープランの中で考えていただけるものもあると思う。大きな工場誘致も良いが、どんな工場を誘致するのか、教育にふさわしい環境になるのか、そういうことを考えていただきたい。行田で子育てしたいと思う方が増えることを願ってやまない。</p>
今村委員	<p>市民大学の理念として、自ら志をもって学ぶこと、そして、地域社会に還元していくということが謳われている。すでに200名ほど受講者を受け入れているが、6割程度はしっかり理解されていて、まちづくりにも積極的に参加しようという意識を持っておられる。事実、市民まちづくり会議の参加者や傍聴人のほとんどが市民大学の出身者である。市民と行政との協働を進める中で市民不在であってはならない。このメンバーに参加させていただいたが、総合振興計画の策定に加わった方がこの都市計画マスタープランの策定に関われば連動するのではないかと思った。</p>
荒井委員	<p>みなさんのご意見を拝聴して改めて勉強させていただいた。農業と安心安全が重要だと思っているが、農業については、主人が</p>

亡くなった後に耕作をやる人がいない、今までの耕作を続けても  
らいたいと頼んでも他所の耕作はしない、という人が多い。安心  
安全については、救命用具の使い方の講習をやってもらったが、  
機具は公民館にあってそれまでに死んでしまう、という声もある。  
もう少し具体性を持った意見を拝聴できれば有難かった。

細井委員

行田市を知る機会を頂いて非常に勉強になり、より行田市が好  
きになった。県知事や各市長などそれぞれ人口を増やすことを考  
えている。その競争の中で、行田市を買ってくれるかどうかだ。  
購買心理には3つあり、1点目が打算、つまりお得かどうか。2  
点目が危機からの脱出、つまり安全安心。3点目がブランドで虚  
栄心。誰もが人より良い所に住みたいと思う。東京は人口が減っ  
ていないが、危機からの脱出の点では東京に勝っていると思う。  
住んでお得だから買おう、と思ってくれるまちになるよう、官民  
学や一般市民の皆さんと一緒に学んでいければいいと思う。

白井委員

他市の計画はだいたい堅いが、今回の計画を見ると表現や色  
使いなどだいぶ柔らかくなってきた。過去の都市計画のイメージ  
を引きずっていると思うが、ソフトの面ももっと将来に向けて出  
していく、そうすると都市計画マスタープランという名前が合わ  
なくなってまちづくりマスタープランという名前ぐらいでいいの  
ではないかと思う。結局都市というのはハードであるものではな  
く、そこに人が住んでまちができると思う。まさにソフトが重要  
であってそういう点から考えていければいいのではないかと思  
う。特に全体構想を見ると、行田というのはこういうまちなのか、  
というのが非常によくわかる。ということは市民の方も全体像は  
よくご存知ない方がおられると思うので、もっとやさしいダイジ  
ェスト版をつくって市民広報につなげていただきたいと思った。  
行田らしさというのはあると思うので、行田らしさを市民にもっ  
とアピールすべきだという思いを持った。自然があり文化があり  
産業があり、生活環境が非常に良い、ふるさとという言葉にふさ  
わしいまちだと思う。ふるさととしての豊かさの質を高めていっ  
ただけければ素晴らしいまちになるのではないかと思う。

山崎委員	<p>行田市で生まれて育ってきたが、今まで知らなかったことが多過ぎてびっくりしている。会議を通して立派な冊子ができて、これがどのように実現されていくのか、というのを確認していければと思う。市民意識調査の回収率が37%と低いので、もっとやさしくしたバージョンで広報したり、いろいろな場でお伝えしていければと思う。のぼうの城で話題になっている行田市なので、観光にも力を入れていただきたい。</p>
野中委員	<p>自治会としては、現在は防災を重点に各自治会長にお願いしている。この計画は全て住民に関係があるものなので、この計画ができたということで将来を楽しみにしている。水と緑といつも書いてあるが、用水に水が流れていなくて溜まっている状態、そういうところは将来ではなくて近いうちにやっていただきたい。</p>
小林委員	<p>教育・福祉・子育てなどに触れられなかったというご意見があったが私も同感だ。この20年間で小中学校を統合しないとけないと思うが、この場では議論しないということで引っ込んでしまった。すでに北河原小学校では複式学級となっている。福祉や子育てについてもあまり触れられなかったのが残念だった。表記上の問題で、51ページでは「こども会議」がひらがなになっているが他は漢字になっているので統一してほしい。87ページに「取り組み」というのがあるが統一する必要がある。97ページに「誰もが」とあるが3大新聞ではひらがな表記である。校正段階で統一していただきたい。</p>
秋山（量）委員	<p>農業委員会というと農地についてチェックする機関であるが、大変厳しい時代に入っており、農業従事者の高齢化や今後懸念されるTPPがある。関税が撤廃されるというのは農業としては非常に厳しい時代が来るのではないかと思う。耕作放棄地が目立つようになってきているが、耕作に結び付けるには大変な努力がいる。行田は「水と緑のまち」というのをキャッチフレーズにしているが、環境整備の中で農地ということに真剣に取り組んでいただきたいと思う。計画は全体的に非常に良く出来ていてみなさんの成果だと思っている。</p>

橋本委員	<p>委員ではあるが、事務局を所管している立場でもあり、発言もしづらかったが委員のみなさんには熱い思いや貴重な意見をいただき感謝申し上げたい。素案をお示しすることはできたが、どうしてもご意見を取捨選択しなければならないこともあるので、その点をご容赦いただきたい。平坦な地形である行田は、高齢化を迎える中でコンパクトシティを実現しやすいまちだと思っているので、計画を推進していきたい。</p>
小河原委員	<p>総合振興計画を所管する部署として参加させていただいたが、人口減少社会での計画づくりということで非常に難しい計画づくりになると感じていた。この都市計画マスタープランが人口減少を見据えた中で良い計画であるかは非常に判断が難しい。持田地区や前谷地区の住居系土地利用などはどうしても取り組んでいかなければならない。絵に描いた餅ではいけないと思うが、この計画で位置付けておかないと動けないこともあるので、「検討します」という言葉にはなるがご理解いただきたい。</p>
秋山（佳）委員	<p>各方面の方々から貴重なご意見を聞かせていただいた。この計画が決定すれば、議員はPDCAサイクルの中で一番身近でチェックできる立場になる。みなさんのご意見を実現できるように我々の立場として努力していきたい。</p>
吉田委員	<p>人口減の中でどうすればいいのか、という議論もあったが、いろいろな施策により人口減少を最小限度にとどめて、行田市はこれからどうあれば良いかという視点で参加させていただいた。行田市には資源がたくさんあるので、より行田市が発展していくよう、多くの市民の方の声を聞きながら進めていきたい。</p>
柿沼委員	<p>我々の意見もしっかり入っているので、これをしっかりやっていきたい。私は議員1期生であるが、どうしてもこの委員会に参加したいという思いがあった。積極的でなければいけないと考えており、生意気な意見を言ったかもしれないが、委員の皆さんも積極的にやっていただければ、もっと良かったかなと思う。我々議員は市民の声をぶつけるというのが仕事なので、市民の皆さんももっと積極的になっていただければと思う。行田市を外から見</p>

<p>宮本委員</p>	<p>た意見をもう少し加えていただきたい、というのが私の意見になる。</p> <p>元々都市計画の仕事をしていて計画を作る方はいろいろやったが、意見を言う立場での参加は初めてだった。もっと市民の方のご意見をという意見があったが、次のマスタープランづくりもあるので、その時にはそうなって欲しいと思った。私が考えている産業像として、せっかくある1次産業を6次産業にさせていただきたい。1次産業に加工の2次産業を加え、実際に売れるものをつくっていく。産業団地もただ工場を入れるのではなく、農業を活かして何かつくる、そこで働きたいというものを考えていただきたい。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>これまで皆さんからは、非常に本質的で重要なお意見をいただけたと思う。議長として拙い運営にも関わらず職責を果たすことが出来たのは、委員の皆さん並びに事務局のおかげだと思っている。本日のご意見を受けて部分的に修正が必要となるが、修正の内容については私と事務局に一任ということでよろしいか。</p>
<p>全員</p>	<p>異議なし。</p>
<p>酒井委員長</p>	<p>1月8日に私と吉田副委員長から市長に案を提出することになっている。それをもって私の役割は終了することになる。委員の皆さんにおいては、日頃、様々な場でまちづくりに関わっていただいていることと思うが、これを契機に更に一層ご協力いただきたいと思う。</p>
<p>事務局(横倉主任)</p>	<p style="text-align: center;">議事審議終了</p> <p>本日の議事録はホームページで公開するとともに各委員に送付する。素案については修正を行い1月8日に市長に提出し、1月上旬から約1ヶ月間パブリックコメントを行う。3月に予定している都市計画審議会で見聞聴取を行い、3月中に計画内容が確定する予定である。委員の皆さまには冊子が出来次第お送りする。</p>
<p>事務局(岡村課長)</p>	<p>策定委員会については第7回をもって終了する。</p>

